

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

9月2日(水)～7日(月)

わが心のシルクロード 七代 加藤 幸兵衛 展

このたび大阪高島屋では、「わが心のシルクロード 七代 加藤幸兵衛展」を開催する運びとなりました。美濃の名窯・幸兵衛窯の七代目当主である加藤幸兵衛先生は、父・卓男先生とともに長年の研究により復元した「幻の名陶」ラスター彩をはじめ、ペルシア陶技を受け継ぎながら、現代の感性で新たな表現を切り拓いてこられました。今展では、陶壁や陶額、壺、皿、香炉などの新作を一堂に展覧いたします。ぜひこの機会に、古代と現代が響き合う陶芸の世界をご高覧ください。



「ラスター彩花文角型香炉」
(29.5×8.8×高さ18.2cm)

9月9日(水)～14日(月)

ピーター・ハーモン 作陶展

ピーター・ハーモン先生の展覧会を開催します。日本に來られ四十年ほど。丹波篠山の自然に魅了され、古民家を改築され、陶芸を愛し、茶道を愛し、我々よりも日本の伝統を深く愛し、そして現代に挑んでおられます。作品は、シャープな形の中にもお人柄を感じるような優しい風合いが魅力です。ぜひご高覧ください。



「遊市松文合子」
(19.8×19.8×高さ27.2cm)

9月16日(水)～21日(月・祝)

奥谷 太一 展 空

奥谷先生は人種の多様性、動物や植物を含むあらゆる生命が関わり合いながら存在していることなどをテーマに制作に取り組まれてきました。今展では、そのような関係性や、要素の重なりによって生まれる偶然性を、作品を通して表現していただきます。

【ギャラリートーク】 ■9月19日(土)午後3時から



「漆黒のドリル」(200号F)

9月23日(水・祝)～28日(月)

岩谷 晃太 展 -青・漠-

古来、人々の生活に深くかわってきた月や稲妻をモチーフに、潜在意識の中に受け継がれてきた「美」を描く岩谷先生が新たに取り組みを進めている青い作品も発表いたします。東京藝大大学院博士号取得作品や京友禪で制作された着物も併せてご紹介いたします。



「月と稲妻」(41×41cm)

9月30日(水)～10月5日(月)

佐藤 泰生 展 -ひかりの狭間-〈油彩とガラス絵〉

佐藤泰生先生は1945年生まれ、1967年東京藝術大学油画科を卒業。1969年同大学院を修了後は、フランスへ留学され、5年間欧州にて研鑽を積まれました。現在は新制作協会会員としてサーカス図やヴェニスの風景、カフェや公園に集う人々、逗子の海から臨む富士などの描写で知られる色彩の画家として活躍されています。今展では油彩とガラス絵に加えて、瓶や、ノベットの描いた作品から墨絵までこれまでの制作活動の集大成となる新作を一堂に展開いたします。

「黄色いサーカス2026」(150号F)



※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

8 26 9 7
WED MON
しも やま なお き

下山 直紀 SHIN×獣 selection



「Plasma」(70×150×高さ56cm)

確かな彫刻技術による表現、表現の先にあるテーマが木彫家として際立つ下山先生の4年ぶりの個展です。「新」「真」「神」といった複数の意味を内包するSHIN×獣。これらの生き物の形は、現世と神秘の領域の境界に立ち上がる輪郭です。いずれかの意味に固定されない、未確定な存在の気配を感じてください。

9 9 21
WED MON・祝
おく むら しょう いち

奥村 彰一 展 -Sort of Resort-



中国の中央美術学院で山水画を学んだ奥村先生…元来、山水画はその中で逍遙し、その風景を心で遊び楽しむものでした。吉祥画やSNS上に漂う断片的なイメージなど、様々なモチーフの引用によって構成されている先生は現代の楽園を描かれています。描かれているイメージやモチーフを目で追いかけてながら、作品の中を巡るような感覚はどこかリゾートで心を癒す感覚と似ているかもしれません。

「Endless Pit Stop」(116.7×91cm)

9 23 10 5
WED・祝 MON
ふじ べ やす よ

∞SKY 藤部 恭代 展



藤部恭代先生の3年振りとなる個展を開催いたします。藤部先生は、表面的な華やかな美しさの裏に潜む、二面性や残酷さ、画面の中に流動的で多層的な時間を表現する作風で高い評価を得ておられます。今展では無限に広がる空をテーマに、新シリーズを今までの作品シリーズと織り混ぜながら展開します。色彩豊かな空のように広がる新しい世界観をお楽しみください。

「INFINITY SKY 2026」(45.5×53.0cm)

10月7日(水)～12日(月・祝)

にし だ ふじ お
—毛糸物語— 西田 藤夫 展

西田藤夫先生は、イタリアルネサンスの伝統技法に裏打ちされた、静謐で優しく、観る人の心を癒す作品で高い評価を得ておられます。今展では20年以上描いてこれ、西田先生には「優しさが一杯詰まった惑星のように魅力的に見える」毛糸だまをモチーフにした作品を中心に発表していただきます。3年前に40数年滞在されたイタリアから帰国し、制作の拠点を日本に移された西田先生の新境地の作品の数々をぜひご覧ください。

「無言劇」(100号F)



高島屋大阪店 6階 美術画廊のご案内 2026 9・10月

とく さわ みつ のり
唐津 徳澤 光則 展

このたび 高島屋大阪店におきまして、唐津焼の技法をもって、須恵の地で作品を制作される徳澤光則先生の展覧会を開催させていただきます。先生は、日本伝統工芸展や公募展、個展などを中心に精力的に作品を発表し、全国各地で活躍されています。また、茶の湯 お道具としての「用の美」を追求されながらも、神秘的な生命力溢れる独自の新たな世界観を演出した作品を制作されています。今展では、貴重な唐津の土、唐津の釉薬、そして様々な表情を魅せる窯変にこだわり、大胆な造形美溢れる茶碗、水指、花器、器作品など、受け継がれてきた伝統と技・美意識を礎としながらも、絶え間ない革新を重ねることで深化してきた唐津焼の魅力を体現する新作の数々を一堂に展覧いたします。ぜひご覧ください。

「粉引茶碗」
(11.0×10.7×高さ9.5cm)

10月14日(水)～19日(月)

み わ きゅう せつ
十三代 三輪 休雪「雪山-SESSEN-」

先生は、1951年山口県萩市に生まれ、1975年アメリカ サンフランシスコ・アート・インスティテュートに留学、1984年「DEAD END」で鮮烈にデビューを飾られました。刀で土を斬り出す独特の造形技法と伝統の白萩釉を融合させた作品は、近年、国内外のアートシーンでも高く評価されています。本展では、かつて高島屋で発表の代表作「花冠」「雪嶺」からさらに深化させ、自然のダイナミズムを具現化した新たな境地「雪山(SESSEN)」を発表いただきます。混迷をさわる現代において、土が持つ圧倒的な生命力と、人々の幸福と安寧を願う先生の切なる思いが込められた作品の数々、その創作の軌跡を、ぜひご覧ください。

「雪山」
(28.6×28.0×高さ58.5cm)やま もと ま すみ
山本 真澄 日本画展 —風のゆく先—

大阪高島屋では初となる山本真澄先生の個展を開催いたします。山本先生は世界各地の民族衣装を纏った子どもたちを描いた作品で高い評価を得ておられます。こともたちは、人と神仏のあわいに佇むような存在として描かれ、その無垢な眼差しは、言葉にならない感情を映し出すとともに、どこか神秘的な気配を感じさせます。それぞれの土地で育まれた美しさや物語に敬意を払いながら、一つの画面の中で自然に響き合う景色として描かれた作品たちをぜひ、ご覧ください。

「Filaments」(30号F)



10月21日(水)～26日(月)

おお つ えい びん
パステル画の小宇宙 大津 英敏 展

大津英敏先生の個展を開催いたします。大津先生は1943年熊本市生まれ。東京藝術大学大学院を修了され、その後、独立展の「独立賞」をはじめ、安井賞展の「安井賞」等数多くの賞を受賞。現在は、日本藝術院会員、独立美術協会の中心メンバーとして個展やグループ展で活躍されています。近年はアトリエを構える鎌倉の、自然豊かな海の表情とともに、家族を描いた作品も発表されています。今展では、パステル画による大作から小品まで、新作を一堂に発表いたします。この機会にぜひご覧ください。

「セース川のレザンドレ」
(24×31cm)まる やま たつ や
丸山 達也 木彫展

人とは異なる姿かたちをもつ動物たちに強い憧れと魅力を感じ、その思いを鑿に託して制作されている丸山先生の3年ぶりの個展です。中を空洞にし、漆を使用しているの接着や彩色という古典的な技法で絶滅危惧種や貴重な生きものを表情豊かに制作されています。

「The march was ringing-Quagga's record-」
(38×28×高さ22cm)

10月28日(水)～11月2日(月)

い とう
伊藤 はるみ展 —風のゆくえ—

伊藤はるみ先生の9年振りの個展を開催いたします。伊藤先生は四季折々の草花や自然の風景をモチーフに、気品と繊細さを兼ね備えた写実的で詩情豊かな画風が高い評価を得ておられます。花びら1枚1枚や葉脈に至るまで細部が精密に描きこまれ、花そのものが画面いっぱいに広がるダイナミックかつ叙情的な構図は観る人を魅了します。ぜひご覧ください。



「杜若」(10号F・軸装)

つば い よし のり
壺井 義統 作陶展

このたび壺井義統先生の展覧会を開催させていただきます。先生は伝統的な印華紋をつかった魚や鳥の紋様を施した陶器をお作りになられます。長年にわたる熟練の技が凝縮した約50点の作品をぜひご覧ください。



「双魚紋壺」(径21.0×高さ22.5cm)

TAKASHIMAYA
Art Information
2026 9・10月
高島屋大阪店 6階 ギャラリーNEXTのご案内

10 7 19
WED MON
※10月13日(火)は開催いたします。

すぎ やま けい
杉山 佳 展 —絵のある部屋—「並ぶ木々」「桜」「黒い猫」「チューリップ」「鯉のぼり」「たぬきケーキ」
(各12×12cm／麻紙・岩絵具・膠・クレヨン)

本来そこにあるべきものが存在しないことを意味する「不在」をテーマに、具体的な対象、すなわち「存在」を描くことで間接的に立ち上がる「観念としての対象」を表現される杉山先生の作品は日本画の岩絵具とクレヨンの線が優しく語りかけてきます。待望の初個展では100枚の小さな作品を発表。お客様にお好きな作品を組み合わせ額にはめていただく、オリジナルフレーミングを展開いたします。作家との共同作業をお楽しみください。

10 21 11 2
WED MON
※10月27日(火)は開催いたします。

とみ た み き こ
富田 美樹子 展 —生命の紋様を紡ぐ—

先生は1972年大阪府に生まれ、1996年に京都市立芸術大学工芸科陶磁器専攻を卒業。艶やかで緻密な色絵金彩など多様な表現手法を用いた有機的な造形作品で評価を得ている作家です。宗教建築物や装飾、自然界の法則からインスピレーションを受けた独特の紋様表現は、単なる装飾表現ではなく内なる衝動による秩序と美が宿った根源的な本能に近い行為と捉えた独自の世界観を確立しておられます。今展では、オブジェから器形の作品まで代表作を一堂に展覧いたします。

「Pulse of Origin-起源の鼓動」(40×40×高さ60cm)